

利用者の署名運動でやっと存続することになったらしい。私はとにかくこの駅が好きだった。それが何と驚くことに富田靖子主演・市川準監督の『BUSU』という映画の一シーンで使われたのである。うれしくもあり、寂しくもあった。以上が私の現に利用した図書館についての話と余談である。

最後にとって付けたようだが、図書館についての本を紹介する。塩見昇著『知的自由と図書館』という本が去年出た。図書館の自由の先進国であるアメリカの図書館の歴史を知るうえでも参考になる本であろうが、私が特に興味を持ったのは日本の公立図書館が戦前戦中に政府のイデオロギー支配の一翼を担った歴史と、戦後の図書館をめぐる様々な事件に図書館関係者が対応し、ついに「図書館の自由に関する宣言」の採択に至る努力の歴史である。また、検閲についての塩見氏の見解は傾聴に値すると思う。氏は国家権力による検閲だけでなく、社会的な権力による検閲、さらには社会的弱者による差別・偏見を告発するという形の一種の検閲をも視野に入れた問題設定を行っている。私も国家権力の検閲をめぐる問題はこのような広い視野のもとで初めて解決の糸口が見つかるのではないかと考えている。



私の図書館利用

法学部3年

藤岡江理香

図書館をよく利用しているとは決して言えない私がこれを書くのは、自分自身で不思議に思いますが、私なりに私の図書館利用について述べていきたいと思います。

一、二年生の時の一般教育の授業で、先生方が、時々

「まあ、一般教育なのでこの位までにしておきます。興味のある人は、自分で図書館へ行くなりしてもっと深く勉強してみてください。」とおっしゃっていました。私は、その言葉を聞いて図書館へ行ったという記憶などは、一度もありません。その事柄にあまり興味がわかかったという理由もあります。

このような私でも、利用する時は利用します。一、二年生の時は、授業がない時には語学の予習をしていました。また試験前の勉強の時にも図書館を使わせてもらっています。けっこう友人らも、ポツポツと座っており、分からない事を教えてもらったり、教えてあげたりでき、便利です。この時には、本当に当たり前の事ですが、他の人の迷惑にならないようにと心がけています。これは絶対に守らなくてはならないことです。時々、集団で図書館へやって来て、ワイワイおしゃべりして帰っていくといった人たちを見かけますが真剣に勉強している人にとっては大迷惑です。これだけは、本当に気を付けたいことです。

話題は変わりますが、図書館は、夏は冷房冬は暖房といったふうに、非常に勉強しやすくなっています。たまに、単なるひと休みのためにだけ座っていることもあります。それもまたいいものじゃないでしょうか。

このような恵まれた設備をこれからもっともっと利用していきたいと思っています。この夏休みは、図書館に通って、頑張ってみるつもりです。

ブラジルの図書館との違い

大学院農学研究科

小野美佐雄マルコス

私が初めて香川大学農学部の図書館に行ったとき、私のいつもの悪い癖が出ました。すぐ私の大学の図書館と比べてしまったのです。

まず初めに、コンピュータで本を探すことを知り、感心しました。次に、本を置いている所まで行くと、私の大学では温室にしかないクーラーがあり驚きました。その後レポートを捜したり、本を読むために何回も図書館に行きました。その度に、図書館員の方々に何回も親切に助けて頂き、とても感謝しています。

しかし、ブラジルの図書館にも良い点があります。例えばブラジルでは日曜日にも図書館が使え、更に普通の日も夜の11時まで開いています。しかし、今農学部では、私は昼間に授業を受けたり、実験をし、夜になってから本を読んだり、レポートを書いたりしています。時には他の本が必要になります。そのとき次の日にしか見られないので困ります。また、私の大学の検索カードは香川大学よりもわかりやすく、簡単だと感じました。ブラジルでは図書館は勉強するところで、学生がリラックスして勉強が出来るように大部屋や、禁煙室などの色々な部屋があります。

農学部の図書館には、私が気になる点が三点あります。一つは机を仕切る目隠しの板が低くて音が出ることです。もう一つは冬に乾燥して喉が痛くなることです。だからヒーターを弱くするか、加湿をして欲しいです。最後に、本がもっとわかりやすく並べられると良いと思います。細かいことですが、私たち留学生にとってもっと使いやすい図書館になって欲しいと思います。

図書館を利用して

商業短期大学部3年

川東 好

大学に入学したての頃、私は、図書館などあまり利用することはないだろうと思っていました。しかし、授業が始まり、レポート提出という課題を出され、たくさんの本を読まなければならない。私は初めて大学の附属図書館に行きました。

それからは、レポートが出されるたびに、図書館へ行くようになりました。そして、その際いつも感じるがあります。それは、本の冊数が少ないということです。先日も、多人数が受講している講義でレポートが出され、図書館へ本を借りに行ったのですが、ほとんど残っていませんでした。そこで、私がいつも思うことは、本の冊数、種類をもっと増やしてほしいということです。このことは、香川大学の学生ならば、誰でも思っていることではないでしょうか。

また、試験勉強をする時にも、よく利用します。家で試験勉強をするのと、大学の図書館で勉強するのでは、やはり違うと思います。というのは、図書館の雰囲気によって、勉強に対する意欲が高められ、試験勉強の能率が上がるためです。そういう点で、図書館の存在はありがたいと思います。しかし、たまに、図書館で騒ぐ人がいて、気が散って、集中して勉強できないことがあります。図書館では、他の人も勉強したり、本を読んだりしているのだということを考えて、利用しなければなりません。

私は、今まで、レポート作成や試験勉強の時しか、図書館を利用していませんでした。しかし、最近は時間の余裕もでき、もっと気軽に図書館へ足を運んで、時間を過ごしたいと思うようになりました。そこで、気軽に読めて、楽しめる文庫本をもっとおいてほしいと思います。これからも、今まで以上、図書館を利用していきたいと思っています。そのために、より使いやすく、より私達学生の満足のいくような図書館にしていっていただきたいと思っています。